

令和 7 年度 一般選抜学力検査 問題

国 語

〔注意〕

- (1) 「はじめ」の合図があるまでは、この問題冊子を開いてはいけません。
この「注意」をよく読んでいてください。
- (2) 国語の検査時間は 50 分です。
- (3) 問題は 1 ページから 15 ページまであります。
解答用紙は 1 枚で、この問題冊子の中にはさんであります。
- (4) 受検番号と氏名をこの表紙と解答用紙に必ず記入してください。
- (5) 答えはすべて解答用紙に記入してください。
- (6) 解答に字数制限がある場合は、記号や句読点も一字としてかぞえます。
- (7) 問題の内容についての質問には応じません。印刷のはっきりしないところがある場合には、
静かに手をあげて係の先生に知らせてください。
- (8) 筆記用具などを落とした場合は、静かに手をあげて係の先生に知らせてください。

受検番号					

氏 名	
-----	--

第1問 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ペットも飼い主もロボットになるとき

①数年前から、日本では十五歳以下の子どもの数より飼われている犬猫の数が上回ったといわれている。犬猫以外にもモルモットや小鳥、金魚など多種にわたるペットがいる。日本は世界でも有数なペットAとなった。

②一方で、日本はロボットBとしても知られている。人間の代わりに重い荷物を運ぶ産業用ロボット、深海や地雷原など危険な場所でも働く探索用ロボット、診療や手術を補助する医療用ロボットなど、さまざまな用途で開発され、すでに実用化されているものもある。最近ひととき注目を浴びているのがヒューマノイド（人間型）ロボットだ。

③パナソニックのエボルタ電池を搭載した手のひらサイズのミニロボットは、アメリカのグランドキャニオンの登頂に成功した。乾電池の性能を証明する試みだったが、①見ている私たちは、ロボットがロープを登るたびにがんばれと声援を送りたくなった。このロボットを製作した高橋智隆氏によると、これからはロボットに仕事をしてもらうのではなく、ペットのようにつき合えるヒューマノイドの時代だという。直立二足歩行をするホンダのアシモも、人間と協調しながら動くヒューマノイドロボットに変身しつつある。

④ロボットは二十世紀初めに化学的合成人間として登場し、その後主体性を人間に委ねる機械として定義されるようになった。アイザック・アシモフのロボット三原則（人間への安全性、命令への服従、自己防衛）は有名である。それが時代を経て、人間に愛護される対象として生まれ変わろうとしているのだ。

⑤私は、ペットや動物とロボットは対極的な存在だと思う。動物は人間とは姿形が違ちがうし、コミュニケーションの方法や求めていること、理解の仕方も異なる。

⑥それでも私たちは動物に話しかければ、彼らかれの方法でそれにこたえてくれるはずだと思ひこんでいる。単に私たちが彼らの反応を勝手に解釈しているだけかもしれないが、それを証明するのは難しい。それに、そんなことを確かめなくても支障はない。ペットと共存できていれば、私たちは満足感を覚える。

⑦ロボットは正反対だ。人間がつくったから、人間の計算通りに動いてくれなければ困る。仕事を効率よく安全に進めるために、不満を言うことなく、同じことを何度でもくり返してくれる。融通は利かないが、人間の望む通りに改善し動かすことができる。だから、その前で人間は不安を抱かない。何トンもあるトラックが目の前に迫せまってきてても不安を感じないのに、ゾウが目の前に迫れば恐怖にかられる。それはゾウの心が読めず、人に慣れていても何をするか完全には予測できないからだ。ヒューマノイドはいくら外見が

人間に似ていても、機械である限りそのような不安を覚えずにすむ。ロボットは動物のような命や魂をもっていないからである。

⑧ ② その常識がどうやら変わりはじめた。今、動物の姿をしたロボットたちが人間の世界で活躍はじめている。イヌのAIBOやアザラシのパロは、安全で手間のかからないペットとして人々の心を癒やしている。ヒューマノイドがそういった特徴をもつて人間の世界に入ってくるかもしれない。現代の技術では、人間の語りにロボットが反応するだけでなく、人間に語りかけてくれることも可能だそう。人間のしたいことを先回りして提案してくれるものもできつつある。ネット上のマーケットのように、その人の過去の注文にもとづいて次に求めるものを提案してくれるのである。

⑨ ペットの動物とロボットとの溝は急速に埋まりつつある。ひょっとしたら、子どもの代わりにロボットをもつ人が増えるかもしれない。ロボットはいつまでも子どもでいてくれるし、不満を言わずに介護までしてくれるからだ。

⑩ しかし、ロボットと動物の違いは重要だと私は思う。生物は自分が生きるために自己主張をし、成長し、やがて死んでいく。私たちに制御できない自然の営みだ。それに寄り添い、共感することで、自分も生物であることを実感する。動物を完全には操作できないから、その主張を認め、相手を信頼しようとする。その心の動きは相手が人間であっても同じことだ。

⑪ ヒューマノイドの登場は人間が今、自己主張せずに気遣ってくれるパートナーを求めていることを示唆している。ただそれは、ロボットを人間にするのではなく、③ 人間のロボット化、機械化を意味してはいないだろうか。

AIさえあれば生きていけるのか

⑫ 最近の人工知能（AI）ブームは、人間のロボット化を加速しているような気がする。人工知能は膨大なデータを瞬時に分析することができ、深層学習によって必要なソフトを自動的に探しあて、適切な分析方法を考案することができる。今、さまざまな場所でも利用されつつあり、生活は効率的に便利になってきている。

⑬ AIを東大に入学させようとする「東ロボくんプロジェクト」を実施してきた新井紀子さんは、AIは文章の意味を理解することが苦手だという。ある言葉にまつわるこれまでのデータを検索し、それが使われてきた文脈に沿って解答するので、その言葉が使われているその文章の意味を読んでいくわけではないからだ。たとえば、おいしいイタリアンレストランを教えると質問し、その後でまずいイタリアンレストランはと聞くと、同じ場所を答えるという。レストランを探すとき、「C」という言葉がほとんど使われていないので、「うまい」場所に収斂してしまうのである。

⑭ 驚いたことに、日本の中高生にAIの苦手な質問をしてみると、かなりの割合で誤って答えてしまうという。これは、子どもた

ちの頭脳がAI的になっていっているせいだと新井さんは言う。文章の意味を考えずに、言葉を検索して頭のなかで個々の属性だけをつなぎ合わせているのである。これでは、せっかく^④「思考力・表現力・判断力」を向上させようとして記述式の試験を導入しても、成績は上がらない。読解力が低いままに大学で高等教育を受けても、知識も技術も身につけることはできないと新井さんは嘆く^{※5}。

^⑤これは、人間が言語を手にして以来、^⑥脳の中身を外部化してきた当然の、しかし大いに危惧すべき結果なのではないかと私は思う。^⑦言語は、環境を名づけ、それをもち運びせずに他者に伝える効率的なコミュニケーションである。見えないものを見せ、現実にはないものを想像させて、人間に因果的な思考や抽象的な概念をもたらし^{※6}た。文字は言葉を化石化させて時間や空間を超えて伝達できる道を開き、電子メディアの登場は画像や映像の技術を革新して、^⑧人間の視覚と聴覚の世界を急速に拡大した。これらの過程を通じて、人間はそれまで脳にとどめておいた記憶や知識を外部のデータベースに収納し、そこにアクセスさえすればいつでも利用できるシステムを構築したのである。

^⑨少し前まで頭で覚えていたことが、今ではスマホのなかに納まっている。友人の電話番号も、地理情報もこういったデータベースに頼らざるを得なくなっている。生まれたときからスマホを手にかけている子どもたちは、こういったICT社会に慣れてしまっている。そのうち、データを利用して考えることさえも、AIに任せてしまうようになりはしないだろうか。文章を読解する能力をもたなくても、AIさえあれば生きていける。でもそうなったとき、人間は動物ではなく^⑩ロボットに近い存在になっているのではないだろうか。と私には思えるのである。

（『ゴリラからの警告「人間社会、ここがおかしい」 山極 寿一」

【語注】

※1 主体性…自分の判断や考えにしたがって行動する性質のこと。

※2 制御…機械などを望むとおりに安定的に動作させること。コントロール。

※3 示唆…それとなく知らせること。

※4 収斂…縮むこと。ここでは、意識や物事がある方向に集中していくこと。

※5 危惧…心配し恐れること。

問1 空らん A・Bに共通して入る語句としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 大国 イ ブーム ウ 産地 エ 輸入国

問2 ぼう線部①「見ている私たちは、ロボットがロープを登るたびにがんばれと声援を送りたくなかった。」とあるが、この部分について説明している次の文の空らん^①に当てはまる言葉を、①～④の段落の中から七字でぬき出しなさい。

これは、見ている人たちがこのロボットを（ ）として見ていることをあらわしている。

問3 ぼう線部②「その常識」とあるが、どのような常識をさしているか。最もふさわしい説明を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 動物に話しかければ、なんらかの反応を示すはずだという常識。

イ ロボットは動物のような命や魂をもっていないという常識。

ウ ロボットは、ペットや動物などとは対極的な存在だという常識。

エ 動物は、慣れていても何をするか完全には予測できないという常識。

問4 ぼう線部③「人間のロボット化、機械化」とあるが、ここでいう「人間のロボット化、機械化」とはどのようなことを指しているか。最もふさわしい説明を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア これは、人間がロボットのように孤独^{ことく}で仲間を求める傾向^{けいこう}にあることを指している。

イ これは、人間がどんなことにも不満を持たずにやりとげる傾向にあることを指している。

ウ これは、人間が、相手への共感を忘れ、自分の思い通りにしたい傾向にあることを指している。

エ これは、人間が効率や利益を優先し、自然を破壊^{はかい}していく傾向にあることを指している。

問5 空らん Cに入る語句として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア イタリアン イ レストラン ウ おいしい エ まずい

問6 ぼう線部④『思考力・表現力・判断力』を向上させようとして記述式の試験を導入しても、成績は上がらない。」とあるが、これはなぜか。これについて説明した次の文の空らん^⑫に当てはまる言葉を⑫～⑭の段落の中から五字でぬき出しなさい。

それは、これらの基礎^{きそ}となる（ ）を理解することができていないためである。

問7 ぼう線部⑤「脳の中身を外部化する」とあるが、その具体例に当てはまらないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア こみ上げてくる怒^{いか}りにがまんができず、目の前にあるゴミ箱を蹴^けってしまふ。
- イ 明日の予定がまるで思い出せなかったので、すばやく予定帳を見て確認する。
- ウ 自分の考えをまとめた文章を画像データにしてパソコンの中に記録しておく。
- エ 相手の話した言葉に深く感動し、思わずメモを取り出してその言葉を書く。

問8 ぼう線部⑥「人間の視覚と聴覚の世界を急速に拡大した。」とあるが、「人間の視覚と聴覚の世界」が「拡大した」とは、どのようなことを指しているか。これについて説明した次の文の空らん^⑮に当てはまる言葉を考え、三十字以内で書きなさい。

これは、電子メディアを通して、（ ）を見聞きできるようになったことをさしている。

問9 ぼう線部⑦「ロボットに近い存在」とあるが、ここでいう「ロボットに近い存在」とはどのような存在であることを意味しているか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 感情を持たない存在。
- イ 考えることをしない存在。
- ウ 常に人間の役に立つ存在。
- エ 死ぬことのない存在。

問10 本文を読んでロボットと人間と動物の関係について興味をもった清林館のジョセフ君はネットを検索した。すると、「弱いロボット」について書かれた次のような記事を見つけた。そこでクラスの友達に二つの文章を見せて意見を聞いた。この文章を読み、あとの意見のうち、最もふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

〔文章〕

弱いロボットを開発したのは、豊橋技術科学大学のインタラクシヨンデザイン研究室 (ICD-LAB)。弱いロボットには様々な種類があり、その一例が、自分でごみを拾えない「ごみ箱ロボット」だ。

ごみ箱ロボットは、落ちているごみを拾いたそうにしながら、よたよたと動く。すると、周りの人が「ごみを入れてほしいのだろう」と察し、ロボットにごみを入れる。ごみ箱ロボットは、自分でごみを拾えないという弱さを適度に見せることで、人間の協力を上手く引き出し、ごみを集めるのだ。

ごみ箱ロボットは、ごみを入れてもらうと少し傾き^{かたむ}、お礼をするような仕草をする。人間は、「ロボットの助けになれた」と嬉しく感じる。人間が機械に完璧^{かんぺき}さを求め、「機械が全部やってくれる」と期待するのは異なる、心温まる関係性だ。

(『IDEAS FOR GOOD』内記事『弱いロボット』から考える、人と機械が共生する未来)

〔意見〕

ア A君「弱いロボットは、応援したくなるという意味でペット的だけど、大して役に立たないという意味ではペット的ではないよね。」

イ B君「弱いロボットは、人間にとって完全には都合よく動かないという意味では動物的だ。ただ死なないのだから動物とはちがうか。」

ウ C君「弱いロボットは、人間に要求をするという意味で動物的だね。そして、人間の手助けが必要という点ではロボットのともいえる。」

エ D君「弱いロボットは、おじぎをするという点が人間的だね。よたよた動くところはロボットのと言えるかな。」

第2問 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

お父さん、いつてきます。

ちーん、と仏壇のお鈴をひとつ鳴らして、ぼくは手を合わせる。

強くたたきすぎたのか、お鈴の音は不器用にふるえながら、部屋の中にすいこまれていく。ぼくはゆっくり目を開けた。

① 小さな写真立ての中のお父さんは、今日も笑顔でぼくを見てくれている。

その横に置いてある細長い花瓶には、朝つゆに花びらをぬらしたまま、コスモスが二輪。すけるようなうすいピンクと、少し濃いピンク。

不思議だな。同じ鉢植えからきつたのに、花の色って微妙に違うんだ。

「輝、なにしてんの、早くしなさいよー、学校おくれるよー、忘れ物ない？」

台所から、お母さんのせわしない声が聞こえてくる。

なにしてんのって、お父さんにあいさつしていたに決まってるじゃないか。お父さんにいつてきますと言わないと、それこそ大事な忘れ物をしたみたいな気分になるのだ。

ランドセルをつかんで立ちあがる。

引き戸を開けると、洗い物をしているお母さんがこっちを向いた。

「忘れ物は？」

「ないない」

「ほんと？」

「ほんとー」

ランドセルをしょって、

「いつてきまーす」

ぼくは小走りで玄関を飛び出していった。

ぼくの住まいは団地の五階。エレベーターなんか使わずに階段をかけおりていく。最後はえいっと二段ぬかしで着地する。上手

に着地しないと、足の裏がじーんとしびれてしまうけど、たんつ、と廊下^{ろうか}に音が響^{ひび}いて気持ちがいい。外へ出たとたん、ぼくはきゅつと目を細めた。

夏休みはとつくにおわったというのに、日差しはまだ夏のまま、ふりかかってくる。

日陰^{ひかげ}になつているところを歩き、影^{かげ}がきれたところで十階建ての団地を見あげた。

五階の右から四番目のベランダ。そこにお母さんが立っている。

柵^{さく}に両ひじをのせて、ゆったりと体を前にかたむけている。

足元では、鉢植えのコスモスが満開だ。

お母さんは、ベランダで季節の花を育てていて、その花を仏壇にかざるのを習慣にしている。春には菜の花やヒナギク。夏にはサルビアやバラが、ベランダをあざやかにいろどるのだ。

ぼくを見つけると、お母さんが手をふってくる。

「いつてらっしゃい」

お母さんの声がかすかに届く。

「いってきます」

ぼくも手をふってこたえる。

毎朝こうして手をふり合うのが、ぼくたちの朝の日課だ。

ぼくが家を出ると、お母さんはベランダに出てきて見送ってくれる。どんなに寒い日も、雨の日だって、小学校に入学してから五年生の今にいたるまで、欠かしたことはない。

② ぼくとお母さんの、朝の「決まり」。

ぼくは歩きながら、何度もふり向いて手をふる。

やがて向かいの団地にさえぎられて、お母さんが見えなくなる。ぼくは最後に大きく手をふると、前を向いた。

さあ、学校へいくぞ。そう思ったとたん、

「おっと」

目の前に人が立ちはだかって、足をとめた。

「あ、智博」

クラスメイトの智博が立っていた。智博は短パンのポケットに手をつっこんだまま、にやりと笑った。「見たぜ。」

③ いやな予感がこみあげてくる。

「おまえ、お母さんにバイバイしてもらってんだ。」

いやな予感があたたった。

それにしても、なんで智博がこんなところに？

智博とは、いつもこの先の交差点で合流するの。

「ていうか、なんでこんなところにいるの？」

「早く家を出たから、おまえをむかえにきたんだ。そしたらさー」

智博は肩かたをゆらして笑った。

「見ちゃったよ。おまえとお母さんがバイバイしてるってこと」

落ちつけ、落ちつけ。

ぼくは呪文じゆもんのように心の中となえた。ここであわてたりしたら、智博の思うつぼだ。

「別に、たいしたことじゃないだろ。」

「するけどさ、普通ふつうは玄関けんでおしまいじゃん」

「そんなの、人それぞれなんじゃないの」

「でもさ、おれたち小五だぜ」

「だから？」

平静をよそおってぼくは言った。智博のわきをすりぬけて歩き出す。

「ねえ、昨日の宿題、すぐくむずかしくなかった？」

④ 話題をかえてみる。だけど、智博はまだにやにや笑いながら、なにか言いたげにぼくを見てくる。

「輝きらってさあ」

日差しの中を歩いてるのに、ぼくの胸はひやりとつめたくなっている。智博の、つづく言葉がこわい。

「もしかして、マザコンってやつ？」

「なっ、違うってば」

声がうわずってしまった。もう平静でなんかいられない。智博は満足げにうろたえるぼくをながめた。学校へつづく大通りに出ると、歩道に色とりどりのランドセルがいきかっている。

少し前のほうに、見なれた茶色のランドセルを見つけた。クラスメイトの祐希だ。智博はなにかたくらんでいる顔で、ぼくをちらりと見た。またしても、いやな予感で、胸がひやりとなる。

「おーい、祐希」

大声で呼びながら、智博が走り出す。ぼくはあわててあとを追った。

昼休みには、クラスじゅうに知れ渡^{わた}っていた。

「お母さん、バイバーイ」

智博が体をくねらせながら言う、まわりをかこんでいた男子はみんな爆笑^{ばくしょう}した。

「今朝たまたま手をふっていただけだってば」

もう何度目のいいわけをしても、もりあがった空気をこわすことはできない。

ぼくは智博といっしょに笑っている祐希を見た。祐希は背が高く、女子のあいだではちょっとした人気がある。

あいつだって、お母さんにべったりなくせに。

この前、ふざけ合っていたのか、お母さんの腕^{うで}にぶらさがるようにして歩いているところを見かけたのだ。もちろん、そんなことみんなにばらしたりはしない。でもそのとき思ったんだ。

なんか子供っぽいなって。

【ア】

「あんたたち、もうやめなさいよ」

突然^{とつぜん}わりこんできた高い声に、男子の笑い声がぴたりとやんだ。

菜摘^{※2}が仁王立ちしながら男子の集団をにらんでいる。

「そうやって人を笑いのにするの、やめなさいよ！」

ハキハキとものを言う菜摘は、クラスの女子の中心的存在だ。ほかの女子からも、口々に抗議^{こうぎ}の声があがりはじめた。

「そうよそうよ」

「人をばかにするなんて最低」

「マザコンだって、いいじゃない」

おい、ぼくはマザコンじゃないってば！

菜摘がポニーテールをゆらしながらぼくをふり返る。

「ばか男子の言うことなんて、気にしなくていいから。ねっ、塚原くん」
まるで年上のお姉さんに言われているみたいだ。

【 イ 】

「あ、うん。ありがとう」

⑤ 女子にかばってもらうなんて、それはそれで情けないよな。

「ばか男子？ひでーな」

智博が口をとがらせる。

「だってよー、あれみたいだったんだぜ」

「あれって、なによ」

菜摘がたずねる。

「ほら、外国の恋人同士こいびとでさ、女がベランダに立ってて、男がその下にいるやつだよ」

智博の言葉につられて、みんなが考えこむ。

ああ、いやだ。また A がする。

「あ、わかった」

菜摘が言う。みんな菜摘に注目して、しーんとなる。

「ロミオとジュリエット！」

笑い声が教室じゅうにぼんとはじけた。ついさっきまで、男子に抗議していた女子たちも、つられて笑っている。結局、みんな

B。ちえっ。なんだよ。

【 ウ 】

ぼくは窓の外に目をそらした。

(『ベランダに手をふって』葉山エミ)

【語注】

※1 お鈴：亡くなった人への祈りを込めて、音を鳴らす仏具。

※2 仁王立ち：どっしりと力強く立つこと。

問1 ぼう線部①「小さな写真立ての中のお父さんは、今日も笑顔でぼくを見ている。」とあるが、「ぼく」から見た生前の父の印象として考えられるものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 真面目できびしい父

イ 優しくて親切な父

ウ 家族に愛情を注ぐ父

エ 口うるさい父

問2 ぼう線部②「ぼくとお母さんの、朝の『決まり』」に使われている表現技法を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 体言止め

イ 擬人法

ウ 倒置法

エ 対句法

問3 ぼう線部③「いやな予感」について説明した次の文の空らん（ i ）（ ii ）に当てはまる表現をそれぞれ答えなさい。なお、空らん（ i ）（ ii ）ともに十五字以内で答えなさい。

（ i ）を智博に見られたことで、（ ii ）という予感。

問4 ぼう線部④「話題をかえてみる。」とあるが、なぜ話題を変えたのか、六十字以内で答えなさい。

問5 ぼう線部⑤「女子にかばってもらうなんて、それはそれで情けないよな。」とあるが、なぜぼくは「情けない」と感じたのか。それについて説明した次の文の空らん（Ⅰ）（Ⅱ）に当てはまる表現の組み合わせとして最もふさわしいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ぼくをからかうクラスの男子に注意をする菜摘が（Ⅰ）と同時に、かばってもらうだけの受け身な自分が（Ⅱ）と思えたから。

- ア（Ⅰ）…うつつうしい （Ⅱ）…幼くて恥^はずかしい
 イ（Ⅰ）…大人びている （Ⅱ）…幼くて恥^はずかしい
 ウ（Ⅰ）…うつつうしい （Ⅱ）…男らしさに欠ける
 エ（Ⅰ）…大人びている （Ⅱ）…男らしさに欠ける

問6 空らん A に当てはまる言葉を本文から五字でぬき出しなさい。

問7 空らん B に当てはまる表現として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ぼくの悪口を言って楽しんでいるんだから
 イ なんだかんだぼくのことを好きなんだから
 ウ おもしろいほうに流れてしまうんだから
 エ 本当はお母さんのことが好きなんだから

問 8 次の文が入るのにふさわしい場所を本文の【ア】【イ】【ウ】から一つ選び、記号で答えなさい。

子供の自分が言うのも変だけどさ。

問 9 この小説の主人公である「ぼく」の姓名^{せいめい}（名字と名前）を漢字で答えなさい。

第3問 次の各問いに答えなさい。

問1 次のぼう線部の漢字の読みがなを書きなさい。

- ① 復興作業が進む。 ② 水が垂れる。

問2 次のぼう線部のカタカナを漢字で書きなさい。

- ① 人工エイセイを打ち上げる。 ② 試合の時間がノびる。

問3 次の文章の空らん（①）（②）にあてはまる言葉を、それぞれア～オから選び、記号で答えなさい。

私たちは一つのやり方や考え方になれてしまうと、それだけが正しいと思います。（①）、それでは、進歩もしないし発見も生まれません。（②）たまには自分たちのやり方や考え方を全部忘れ、最初のころにもどってみるのが大切です。そうすることで先へと進むことができます。勉強も同じですね。

- ア だから イ また ウ しかし エ たとえば オ つまり

受検番号					

氏名

第1問

問9	問8		問7	問6	問3	問2	問1
問10					問4		

第2問

問9	問7	問6	問5	問4			問3		問1
							ii	i	
	問8								問2

第3問

問3	問2	問1
①	①	①
②		
	②	②